

Slovenia Monthly April 2017 vol.3-no.4

スロベニア マンスリー

発行：在スロベニア日本国大使館 発行日：2017年5月5日



～4月の主なポイント～

- 政治：**人権オンブズマン、大量の難民流入時の対応を定める改正外国人法の違憲審査を要請。トラスク欧州理事会議長がスロベニアを訪問し、加盟27カ国の結束の重要性を強調。ツェラル首相がボスニアを訪問し、EUと西バルカン諸国の協力強化を要請。
- 経済：**国会下院でコペル～ディヴァチャ間鉄道建設法案が採択されるも上院で否決、再審議へ。関西ペイントがヘリオス社の買収手続きを完了。欧州地域等での事業拡大の足掛かりに。政府が欧州委に対して新リュブリャナ銀行民営化の期限延長要請を行うと発表。IMFがスロベニアの本年のGDP成長率見通しを2.5%に大幅に上方修正。
- 社会：**スロベニア人活動家が初めて「環境保護部門のノーベル賞」を受賞。

政治

【内政】

●高齢化社会戦略の発表【18日】

政府は、高齢化社会戦略(the ageing society strategy)案を発表した。同戦略は、すべてのライフステージにおける活動と医療の創造性の促進を目的とし、今後公開討論で議論される。同戦略では①雇用、②すべての世代にとっての自立し安全な生活、③包括的な社会、④すべてのライフステージにおける活動・環境の創出を4つの柱としている。政府系シンクタンクによると、65歳以上の人口の割合は今後とも増加し、2060年までには30%に達すると予測されている。

●人権オンブズマンが改正外国人法の違憲審査を要請【19日】

ヌスドルファー人権オンブズマンは、本年1月に国会で採択された、難民の大量流入等の非常事態時に、警察に対し時限的に不法移民の入国拒否と送還の権利を付与する外国人法改正について違憲審査を行うよう憲法裁判所に要請した。同人権オンブズマンは、本法改正の影響は非常に広範囲で憲法に違反する点が多く見られる旨述べ、その他にも、

差別禁止、平等な権利保護、追放・送還禁止原則及び規制の明確性の原則に反すると指摘した。

●国家改革・安定プログラムの採択【26日】

スロベニア政府は、2017年から18年にかけての国家改革プログラム及び2017年の国家安定プログラムを採択した。両プログラムは、経済及び財政分野での改革案を含むもので、EU加盟国は4月末までに欧州委に提出を求められている。国家改革プログラムでは、短期的措置として、公債費、病気休暇手当及び地方自治体への補助金等の削減、長期的措置として医療制度改革、年金制度改革等を挙げているほか、コペル～ディヴァチャ間第2鉄道路線を含むインフラ投資を計画し、競争力強化を目指している。また、国家安定プログラムでは、本年中に財政赤字をGDPの0.8%未満とするの目標を定めている。

●ブルグレス国会議長が大統領選不出馬の意向を表明【27日】

ブルグレス国民議会議長(現代中央党(SMC、与党第一党)所属)は、ラジオ・スロベニアのインタビューにおいて、本年の大統領選挙に立候補しないとの方針を明らかにした。同議長は、その理由として、スロベニアで最も人気のある政治家の地位を維持して

いるパホル大統領を打ち負かすことは事実上困難であると述べ、一方で、パホル大統領の下で、大統領としてのスタンスは著しく低下し、実際の行動よりも見かけが重要になってきていると批判した。

【外政】

●トウスク欧州理事会議長のスロベニア訪問【3日】

トウスク欧州理事会議長はスロベニアを実務訪問し、ツェラル首相と会談を行った。会談後、両者は共同記者会見を行い、ツェラル首相は、英国のEU離脱に関し、スロベニアはEU加盟国として27カ国の結束に建設的な貢献をしていく旨述べ、英国がEUの重要なパートナーであり続けることに期待を表明した。これに対し、トウスク議長は、最も重要な財産は加盟国間の結束であるとし、英国の離脱交渉における27カ国の結束の重要性を強調した。また同議長は、西バルカン諸国へのEU加盟拡大について、西バルカン諸国の将来はEUにあり、EUは依然として同地域へのEU拡大政策に強くコミットしている旨述べた。



(写真: スロベニア政府広報局/Nebojša Tejić/STA)

●シリア及び周辺地域への人道支援を発表【6日】

クレト外務副大臣は、ブリュッセルで開催されたシリアに関する国際会議に出席し、スロベニア政府は、シリア及びその周辺地域に対する人道支援として、2019年までに28万ユーロを拠出すると発表した。支援の内訳は、国際赤十字及びUNHCRを通じて、シリア及びヨルダンに対する人道支援として、今後3年で12万ユーロ、シリア難民に対する長期的支援として人間の安全保障強化のための国際信託基金(ITF)を通じて6万ユーロ、2018年から19年にかけて、ヨルダン人の大学院生に対する支援として10万ユーロの拠出を予定している。

●シーヤールトー・ハンガリー外務貿易相のスロベニア訪問【6日・7日】

6日、スロベニアを訪問したシーヤールトー・ハンガリー外務貿易相は、エリヤヴェツ外相と会談し、コペル〜ディヴァチャ間第2鉄道路線建設事業へのハンガリーの参入等のインフラ事業における協力を中心に意見交換を行った。シーヤールトー外相は、ハンガリーは本件事業に2億ユーロを投資する用意があるとした上で、①第2路線建設事業におけるハンガリー企業の参加、②ハンガリーの鉄道貨物会社によるアクセス確保及び③港湾施設の長期リース等を通じたハンガリー企業によるコペル港の優先使用を条件として挙げた。また、同外相は、スロベニア政府はコペル港の株主としてハンガリー以外の国の参入を認める考えがないと理解していると述べた。

7日、レベン・インフラ副大臣は、シーヤールトー外相の発言を受け、コペル港の株式譲渡及びハンガリーの貨物列車の優先的扱いは検討の対象となっておらず、引き続き、ハンガリー側との交渉を継続するとして、ハンガリーによるプロジェクト参加は未だ不透明との見方を示した。

●マケイン・米上院議員のスロベニア訪問【8日】

スロベニアを訪問中のマケイン・米上院議員はパホル大統領と会談し、両者は、現在の世界情勢に鑑み、米国とスロベニアが良好な関係を維持していくことが重要との意見で一致した。同上院議員は、イスラム過激派対策等の課題に対処していくためには共同努力が必要であるとして、スロベニアの軍及び国民の貢献に謝意を表明した。

●全EU市民を対象とするEU国境審査の導入をめぐる動き【7日・29日】

7日、EUの対域外国境にて全EU市民を対象とする国境審査が導入されたことを受け、週末にかけて、対クロアチア国境の主要な通過地点にて、数時間にも及ぶ審査待ちの大規模な渋滞が発生した。スロベニア及びクロアチア両政府は欧州委に対して抗議し、同渋滞の解消のため、一時的に新たな措置の実施を延期し、対象を非EU市民と一部EU市民に限定して国境審査を行う従来の措置を実施した。

29日、ツェラル首相、プレンコヴィッチ・クロアチア首相及びユンカー欧州委委員長は三者会談を行い、本問題について議論した。また同日、欧州委は、スロベニア政府の要請に基づき、国境審査での待ち時間が15分以上となる場合に対象を絞った審査の導入を許可する旨伝達し、これを受けツェラル首相は、数日中に新たな規則の導入を行う意向を示した。

●ツェラル首相のボスニア・ヘルツェゴビナ訪問【10日】

ツェラル首相はボスニア・ヘルツェゴビナ(BH)を訪問し、ズビズディッチBH閣僚評議会議長と首脳会談を行った。両者は、二国間関係は全ての分野で良好としつつも、更なる経済関係強化、特に観光及びあらゆるセクターにおける投資強化の必要性で合意した。また、ツェラル首相は、BHのEU及びNATO加盟並びに制度改革への支援を継続すると述べた。

両者は、西バルカン地域の情勢について意見交換を行い、特に難民問題は安定に対する挑戦となり得るとして、EUと西バルカン諸国の協力の重要性を強調した。

●スロベニア・モンテネグロ経済協力合同委員会の開催【10日・11日】

2日間にわたってスロベニア・モンテネグロ経済協力合同委員会が開催され、シモビッチ・モンテネグロ農業大臣及びエリヤヴェツ外相が共同議長を務めた。両者は、良好な二国間関係は企業間協力を通じた経済関係をはじめ、全ての分野において良好な関係を一層発展させていく基礎となるとの意見で一致した。また、シモビッチ農業大臣は、ジダン副首相兼農林食糧相との間で、農業、農村開発、食の安全、養蜂、森林及びR&Dの分野における2021年までの協力計画に署名した。

●トルコの憲法改正をめぐる国民投票に対する国内の反応【18日・19日】

18日、パホル大統領は、エルドアン・トルコ大統領との間で、16日にトルコで行われた大統領の権限強化の是非を問う国民投票及び同国のEU加盟等について電話会談を行ったことをツイッター上で発表した。

19日、エリヤヴェツ外相は、国民議会外交政策委員会において、トルコでの国民投票の結果を憂慮している旨述べた。同外相は、最近のトルコ情勢の推移は、トルコ及びEUの両方にとって好ましくないものであると述べ、他方で、ケルン・オーストリア首相が提案しているようなトルコとの対話停止は、状況の改善に貢献するものではないとの考えを示した。

●ツェラル首相の特別欧州理事会への出席【29日】

ブリュッセルで開催された特別欧州理事会に出席したツェラル首相は、同会合において全会一致で採択された英国のEU離脱交渉に際する交渉ガイドラインについて、スロベニアの利益及び主張した内容は盛り込まれていると評価した上で、「交渉は難航が

予想されるが、ガイドラインはその良い基礎となろう」と述べた。また、同首相は、「英国は、EUから正式に離脱し、財政拠出の停止につき合意されるまで、貢献を継続すべきである。スロベニアはEUの結束政策に基づく加盟国の開発に大きく依存している」と述べた。

経済

【マクロ経済・統計】

●2016年の失業率は8.0%【10日】

スロベニア統計局は、2016年の失業率(ILO基準)が対前年比で1.0%低下し、8.0%であったと発表した。これは、7.3%を記録した2010年以降で最も低い水準であった。

●IMF春期経済観測の発表【18日】

国際通貨基金(IMF)は春期経済観測を発表し、本年のGDP成長率見通しを秋期予測の1.8%から2.5%に上方修正した。一方で、2018年の経済成長は鈍化し、成長率は2.0%にとどまると予測している。本年のインフレ率は秋期予測より0.5%増となる1.5%で、2018年は2%の上昇を見込んでいる。また、本年及び2018年の失業率はそれぞれ7%及び6%と予測し、労働市場が改善するとしている。

●2016年財政赤字統計の上方修正【20日】

スロベニア統計局は、本年3月に発表した2016年の財政赤字に関する統計を0.3%(1億2400万ユーロ)上方修正し、同年財政赤字は対GDP比1.8%(7億3300万ユーロ)であったと発表した。同統計局によると、今次修正は主に利子率の修正によるもので、修正後の数値も2015年の水準である対GDP比2.9%(11億3000万ユーロ)を下回った。

スロベニアに迫る! ④

2016年のスロベニア企業の輸出

日刊デロ紙は、2016年のスロベニア企業の輸出額に関するランキングを発表しました。第1位は昨年に引き続きスロベニアの製薬会社であるクルカ(Krka)社が獲得し、第2位にはこちらも昨年と同様、大手家電メーカーのゴレニエ(Gorenje)社が入りました。第3位はルノー傘下の自動車製造企業であるレヴォス(Revoz)社、第4位は製薬会社のレク(Lek)社となっています。

ランキングに掲載された137社の輸出額の合計は11億2600万ユーロで、対前年比で約10%増加

しました。また、137社中90社が20カ国以上で製品を販売しており、レク社は国内企業で最多となる101カ国、ゴレニエ社は90カ国に輸出しています。

	企業名 (出資企業の国籍)	事業分野	輸出額 (百万ユーロ)
1	Krka(スロベニア)	製薬	1,089
2	Gorenje(日本他多国籍)	家電製造	1,085
3	Revoz(フランス)	自動車	1,071
4	Lek(スイス)	製薬	1,065
5	SIJ(ロシア)	金属加工	678
6	Impol(スロベニア)	金属加工	509
7	Korektor(スロベニア)	機械部品製造	295
8	Talum(スロベニア)	金属加工	263
9	BSH Hisni Aparati (オーストリア)	家電製造	242
10	LTH(多国籍)	金属加工	228

【金融・企業関係】

●関西ペイントによるヘリオス社買収手続きの完了【3日】

スロベニアの大手塗料メーカー「ヘリオス・グループ」は、プレスリリースにて、関西ペイント社がすべての関係国の監督官庁による承認を受け、昨年12月に締結された買収契約に基づく手続きが完了し、同社の経営傘下に入ったと発表した。また、ヘリオス社は、関西ペイント社のヘリオス・グループの買収成功は、同社の欧州での全面的な事業拡大の足掛かりとなり、両社の技術、ノウハウ、製品及び販売網の活用を通じた更なる業績拡大及びシナジー効果の創出により、両社の成長を促進すると強調した。

●政府が新リュブリャナ銀行民営化の期限延長要請を行う方針を発表【13日】

政府は、欧州委に対し、国内最大の銀行である新リュブリャナ銀行(NLB)の本年中の民営化を約した合意の変更を要請すると発表した。政府は、本年中に同銀行全株式の75%を売却する当初の合意を変更し、全株式の50%の売却を本年中に、残りの25%の売却を翌年中に実施することを提案している。

●コペル～ディヴァチャ間第2鉄道路線建設経費に関する法案をめぐる動き【20日・26日】

20日、国民議会(下院)は、コペル～ディヴァチャ間第2鉄道路線の建設費用を、EU基金、内陸国からの財政貢献、トラックによる高速道路使用料及びコペル港の特別使用料の徴収により調達することを内

容とする法律を、賛成49票、反対24票で採択した(下院は90名)。なお、インフラ省は、トラックによる高速道路使用料から年額1150万ユーロ、コペル港の特別使用料から年額830万ユーロの調達が可能と試算している。

26日、国民評議会(上院)は本法案を否決して国民議会に差し戻し、再審議を要請した。国民評議会は、否決の理由として、本法案には財政面を含め、多くの不明点が存在することを挙げており、国民議会にて本法案を再可決するためには、絶対過半数となる46票の賛成が必要となる。

●自動車部品メーカー「Cimos」社の売却【21日】

国内メディアは、イタリアの投資ファンド「Palladio Finanziaria」社がスロベニアの最大手自動車部品メーカーである「Cimos」社の買収に合意したと報じた。非公式の情報筋によると、買収額は象徴的な額である10万ユーロで、Palladio Finanziaria社はCimos社の1億1千万ユーロを超える負債を引継ぎ、今後3年以内に7千万ユーロの資本増強を行う。また同社は、Cimos社が支社を有するスロベニア、クロアチア及びボスニア・ヘルツェゴビナ等の労働組合と既に協定を締結している。

●スロベニアと米国の企業による垂直離着陸(VTOL)電気飛行機の開発に向けた協力【25日】

米国の配車アプリ大手の「ウーバー(Uber)」社は、2020年までに「空飛ぶ車」の技術を開発する「ウーバー・エレベート(Uber Elevate)」計画を発表し、スロベニアの軽飛行機メーカー「ピピストレル(Pipistrel)」社との間で、垂直離着陸(VTOL)が可能な「空飛ぶ車」の開発に向け提携していくことを決定した。本件プロジェクトでは、ピピストレル社が、大都市における近距離運行が可能なVTOL電気飛行機を開発し、ウーバー社が都市部の空域管理及び個人による航空機の運航管理に必要なソフト及びハードウェアの開発を行うこととなる。

社会・文化・スポーツ

●スロベニア人活動家が「環境保護部門のノーベル賞」を受賞【24日】

スロベニアの環境保護NGO「Eco krog」の代表であるウロシュ・マツェル(Uroš Macerl)氏が、環境保護部門のノーベル賞と言われるゴールドマン環境賞(Goldman Environmental Prize)の2017年の受賞者に選ばれた。同賞は、絶滅の危機に瀕している種や

生態系の保護、破壊的な開発プロジェクトの撲滅、持続可能な環境保護の推進等に取り組む草の根環境保護活動家に贈られるもので、マツエル氏は、トゥルボウリエ市の大気汚染問題の解決に大きく貢献し、同賞が1990年に設立されて以降、スロベニア人として初めての受賞者となった。

スロベニアに迫る！④

春を迎えるスロベニアの行事

スロベニアにはキリスト教の伝来以前から季節の移り変わりを表す伝統的な行事がいくつもあり、そのひとつが、スロベニア南東部ベラ・クライナ (Bela Krajina) 地域で行われる春の訪れを祝う行事、「Zeleni Jurij (緑のユーリ、英名: Green George)」です。地域内で内容は異なりますが、主要人物である「緑のユーリ」は共通で、カバの木の枝で全身を覆った若い男性が登場し、町によっては家々をめぐってお金を集めたり、白馬に乗って練り歩いたりします。

伝承では、緑のユーリは冬を寒くて暗い地下で過ごし、春になると暖かい気候と豊かな土地をもたらすために地上に現れると言われています。元々はスラブ地方の神話を起源としますが、キリスト教の伝来後は聖ジョージの神話と合わせて語られました。キリスト教普及のために地域伝承が掛け合わされることは珍しくなく、その後は4月の聖ジョージの祝日に行事が開催されるようになりました。

生活スタイルの変化から20世紀初期までにこの伝統は消えてゆきましたが、近年、地域の有志によってスロベニアの伝統を守ろうと保護に向けた努力が続けられています。



(写真: RIC Bela krajina)

発見！スロベニア

まさに芸術作品、スロベニアのイースターエッグ

スロベニアは中世にハプスブルク宮廷の工芸品の製作を担っていた土地柄から、現在でも繊細で質の高い工芸文化が受け継がれています。

スロベニア南東部のベラ・クライナ(Bela Krajina)地域では「ピサニツェ(pisanice)」と呼ばれる特別なイースターエッグが作られます。「書く」という意味の「pisani」に由来する通り、ペンのような道具で複雑な模様が描かれ、赤と黒で染め分けられます。現在ではアドレシチ(Adrešiči)村近郊でのみ製作され、スロベニアの民族工芸として人気を集めています。

また、リュブリャナ近郊のヴルフニカ(Vrhnika)生まれの芸術・工芸家であるフランツ・グロム(Franc Grom)氏が製作するヴルフニカ・イースターエッグは、ドリルで殻に開けられた3000個から1万7000個もの小さな穴で模様が描かれた、まさに芸術作品です。グロム氏は、リュブリャナのエンジニアリングの専門学校で学び、その後、プロセスオートメーション等の分野で最大手であるIskra社の工場で勤務。長年心に秘めていた芸術活動を始めたのは定年が近づいた時期でした。現在、グロム氏の作品は贈呈品として重宝されるだけでなく、ホワイトハウス、ドイツやロシアの大統領府をはじめ、国内外の名だたる機関や施設に展示されています。



ベラ・クライナ地域のピサニツェ(スロベニア観光局HPより)



グロム氏製作のイースターエッグ(Visit Vrhnikaより)

小さなワイン大国スロベニアのワイナリー紹介

ヴィナ・カウチッチ(Vina Kavčič)は、スロベニア西部ヴィパヴァ丘陵地帯の西側に位置するブリエ村フルラニ地区(標高は300m)にある小さなワイナリーです。その歴史は1800年代まで遡り、2002年に現在のオーナーであるミラン・カウチッチ氏が父親より引き継ぐまで、ワイン畑を含む一般的な農場でした。同氏はそれまで務めていた会社を辞め、父親から引き継いだ農場をワイナリーに変え、ワイン製造の道を歩み始めました。当時8ヘクタールだったワイン畑は、現在15ヘクタールにまで広がり、赤・白・ロゼに加えて2種類のスパークリングワインを含む上質なワインを生産しています。

2009年には、サン・マルタンという商標を登録し、プロモーションを開始。2014年、「バルベラ 2011年」がアイドフシュチナ市長のワインに選ばれたことで、その品質の高さが認められました。このバルベラ種(ぶどうの品種の一つ)は、スロベニアでは主にヴィパヴァ地方で栽培されており、同種から作られた赤ワインは濃いルビー色で、タンニンは少ないものの、しっかりとしたボディを持ち、程よい酸味があるのが特徴です。イチゴやチェリー等赤い果実系の香りが感じられ、長期熟成にも向いています。

第1回 ヴィナ・カウチッチ

2016年には、ワイナリー内にテイスティング・ルームを開設し、サラミやチーズなどの伝統的な郷土の味とともに、ワインテイスティングをゆっくりと楽しむことが出来るようになりました(要事前予約)。

ミラン・カウチッチ氏は、全身全霊をぶどう栽培及びワイン製造に注ぎ、同氏のワインに対する想いがワインの味にも反映されています。



カウチッチ夫妻



看板ワイン(左端がバルベラ)

連絡先

電話: +386 5 364 76 75

HP: www.vina-kavcic.si/

(上記HPの KONTAKT より問い合わせが可能)

在スロベニア日本国大使館

電話: +386-1-200-8281 又は 8282、Fax: +386-1-251-1822、Email: info@s2.mofa.go.jp

Web: http://www.si.emb-japan.go.jp/website_jp/index_j.html

●本資料は、スロベニアに関心のある方であれば誰でも受け取ることができます。新たに配信を希望される方、あるいは今後配信を希望されない方は、以下のメールアドレスにご連絡ください。

info@s2.mofa.go.jp

★在スロベニア日本国大使館のフェイスブックもご覧ください！

スロベニアにおける日本の外交活動、文化行事のお知らせ等の情報を随時発信しております。

<https://www.facebook.com/Embassy.of.Japan.in.Slovenia>

★スロベニア人向けニュースレター「Living in Japan」のご紹介

当館では、毎月スロベニア人向けに日本紹介のニュースレター「Living in Japan (Življenje na Japonskem)」をスロベニア語で発信しています。今年は各都道府県に焦点を当て、各地の歴史・産業・観光・物産品等を紹介してまいります。4月号では熊本県を紹介致しました。このニュースレターは当館のホームページでも公開しておりますので、どうぞご覧下さい。

http://www.si.emb-japan.go.jp/Living_in_Japan.html

【広報文化班からのお知らせ】

●NHK連続テレビ小説「カーネーション」RTVスロベニアで放映中

2017年4月17日(月)より、RTVスロベニアにてNHK連続テレビ小説「カーネーション」の放映がスタートしました。日本で数々のドラマ賞を受賞したこの作品は、著名な日本のファッションデザイナーであるコシノ3姉妹の母親・小篠綾子氏の生涯を描いたドラマです。

○放映チャンネル: TV SLO 1

○放映日時: 月曜～金曜 12:20～13:00(2話ずつ放映、全151話)

※平日見逃した方には週末に再放送があります。

放送チャンネル: TV SLO 2

土曜(4話まとめて放映) 11:15～12:35

日曜(6話まとめて放映) 11:15～13:05

●ゴラズド・ヴィルハル写真展「日本の伝統にみられる精神の中で ～祭り～」

ゴラズド・ヴィルハル(Gorazd Vilhar)氏は、日本文化をテーマにした写真を撮り続けている写真家で、1985年以来日本に住んでいます。今回の写真展では、日本の伝統的な精神を感じることができる「祭り」をテーマに数々の写真が展示されます。

○場所: スロベニア民俗学博物館(住所: Metelkova ulica 2, 1000 Ljubljana)

○会期: 5月17日(水)～9月8日(金)※初日オープニングは18:00より

○開館時間: 火曜～日曜 10:00～18:00、月曜定休

○入場料: 有料(大人4.5ユーロ、子供・学生2.5ユーロ、第一日曜は無料)

●「武士道」展

日本の「武士道」に迫る展示会。スロベニア国立博物館所蔵の甲冑や刀剣類に加え、普段見ることが出来ない個人コレクションの関連作品も展示される予定です。

○場所: スロベニア国立博物館 メテルコヴァ分館

(住所: Maistrova ulica 1, 1000 Ljubljana)

○会期: 5月30日(火)～11月5日(日)※初日オープニングは19:00より

○開館時間: 火曜～日曜 10:00～18:00、月曜定休

○入場料: 有料(大人6ユーロ、子供・学生4ユーロ、第一日曜は無料)

【領事班からのお知らせ】

●スロベニアに90日以上滞在される方は、大使館に在留届を提出願います。

(※インターネットでの提出が便利です。→ <http://www.ezairyu.mofa.go.jp/>)

●「たびレジ」をご利用ください！

「たびレジ」とは、海外に行かれる方が、旅行日程・滞在先・連絡先などを登録すると、滞在先の最新の海外安全情報や緊急事態発生時の連絡メール、また、いざという時の緊急連絡などが受け取れるシステムです。海外旅行や海外出張をされる方は、是非登録してご活用下さい。

(詳細は、<http://www.ezairyu.mofa.go.jp/tabireg/>)

たびレジには「簡易登録」の機能もあります。これは、メールアドレスと国・地域を指定するだけで、対象国・地域の最新海外安全情報メールなどを入手できます(緊急時連絡を除く)。この「たびレジの簡易登録」も是非ご活用下さい。

(詳細は、<http://www.ezairyu.mofa.go.jp/tabireg/>)

●すり被害が急増しています！

最近、リュブリャナ中心部にて、日本人観光客のすり被害が非常に多く発生しています。

被害場所で多いのは、三本橋、青空マーケット、リュブリャナ鉄道駅周辺、レストラン内(宿泊ホテルのレストランを含む)などです。

貴重品は背負ったカバンには絶対に入れないようにし、何か異変を感じたらすぐに確認してください。